

会 議 録 (発言要旨)				
会 議 名	第2次三豊市総合計画審議会 (第3回)			
日 時	平成30年4月26日 (木曜日) 13時30分～15時50分			
会 場	三豊市危機管理センター201 会議室			
出 席 委 員	原 真志 委員長	矢野 康江 委員	新延 修 委員	平井 俊広 委員
	増田 博志 委員	眞鍋有紀子 委員	横山昌太郎 委員	田井 清 委員
	今川宗一郎 委員	中村 和良 委員	砂取 とき 委員	橋本 純子 委員
	黒田日出子 委員			
欠 席 委 員	正田茂義 副委員長	則久 郁代 委員		
執行部・事務局	山下昭史 市長	綾 章臣 政策部長	石原一也 田園都市推進課長	小野 晃照 主任
	森 郁美 主任主事			
傍 聴 者	1名			
議 題	基本構想 (骨子案) について			
議 事 の 経 過 お よ び 発 言 の 要 旨	事務局	(審議会委員の交代、事務局職員の交代について報告、傍聴者の報告)		
	原 委員長	(あいさつ)		
	山下 市長	(あいさつ)		
	原 委員長	それでは、早速議事を進めたいと思いますが、最初に会議の公開について、事務局より説明のあった会議の公開について異議のある方はいらっしゃいますか。はい。		
	平井委員	ホームページで議事録をみましたが、あれはテープ起こしをして作成しているのですか。		
	事務局	録音させていただいたものをテープ起こししています。		
	平井委員	発言者の趣旨について、発言が長い場合は要約しているのですか。		
	事務局	はい、全部筆記ではありません。発言要旨という形での作成をしていますのでご理解いただきたいと思います。		

	平井委員	了解しました。
	原 委員長	それでは、早速議事に進みます。議事 1 基本構想（骨子案）について、事務局の説明を求めます。
	事務局	資料①基本構想（骨子案）について説明
	原 委員長	ただいま、事務局より説明のあったことについて、皆さんからご意見いただけたらと思います。
	横山委員	前回の計画と違って、まず、将来像から先に進んでいく形での提案となっていて、わかりやすいとは思いましたが、なぜ、こういう体系になったのでしょうか。一般の方もこれがわかりやすいのかなと疑問を持ちましたが。
	平井委員	私も読んだときに、“ONE MITOYO”というのは、今までの 2 回の会議を踏まえてそういう意見が出てきたのでしょうか。そう言ったこともあって過去の議事録をみました。かなり詳細な議事録があって驚いたのですが。この“ONE MITOYO”はどこから出てきたのかなっていうのを少し疑問に思っています。批判しているわけではなく、ここで討議した 2 回の会議を踏まえて集約されたものなのか、どこから出てきたのかご説明いただければと思う。
	原委員長	では、体系の話と、その中心となる“ONE MITOYO”について、事務局から補足説明願います。
	事務局	<p>これまでの総合計画の体系では、アンケート結果や時代の潮流、現在の三豊市の現状と、抱えている課題、そして将来的にこのようになっていくのだというのを序章でもってきて、将来像はこうあるべきというのが、これまでの総合計画の型でした。</p> <p>しかし、新たに読んだ人の感想はそこまで読み進めるのに疲れてしまうとの意見もあり、冒頭のアンケート部分などの資料を、バックボーンにすることにし、まず、三豊が進んでいく将来像を最初に打ち出したほうがわかりやすいと言うことで今回</p>

		<p>の提案にさせていただきました。</p> <p>それと、なぜ“ONE MITOYO”なのかについては、先ほど冒頭の市長のあいさつにもありましたが、12月に新たな市長が三豊市に誕生し、山下市長も初めて舵取りを行う中で、七つの町が合併し10年進んできたが、まだまだ市としてのイメージができていないと感じ、心をひとつに三豊市のまちづくりを行なっていきたいという考えを持っています。そこで“ONE MITOYO”を事務局の提案として今回ご提案させていただきました。</p>
	原会長	<p>先ほどの山下市長の挨拶の中でそのようなことをおっしゃられていて、これまでの会議の繋がりというよりは、新市長の意向というものがかなり反映されているというような理解でよろしいでしょうか。</p>
	事務局	<p>はい。</p>
	原会長	<p>これまでの会議の繋がりや議論というよりも、アンケート調査を行った中で、全体としての数値はこうだが、細かく見ていくとエリアによって数値が違うので、一つの集計値だけで判断されては困るという意見も出ていたと思う。そういう意味で、一つの三豊を目指すという主張のスローガンは確かにその通りだなと思いつつも、地域ごとに配慮したきめ細かな政策も必要だというバランスは取らないといけないのかなと思います。</p>
	事務局	<p>今、会長がおっしゃられた通りで、心をひとつにということだが、今回、新たにまちづくりマップということでゾーニングをやっていく。旧町ごとにそれぞれ取り組むということも大事だが、新たな一つの三豊の形の中で、この区域はこのゾーンで取り組んでいこう、その中で、集中特化していこうとかという考え方を持っていきたいということです。</p> <p>今、国がコンパクトシティ、中心に寄せてくるような政策を進めているが、三豊市としてはそこに向かうのではなく、七つの生活拠点を守りながらも、心をひとつに選択と集中で行きたいということは踏まえておきたいと思います。</p>
	平井委員	<p>細かい議論になるかも分からないが、追加資料の人口動態の</p>

	<p>事務局</p>	<p>資料について。先ほどの説明で、自身のお財布で考えてという話でしたが、財源は少なからず減っていく。山下市長も先ほど言われたように少子高齢化を止める特効薬はない。それに対して私は将来難しいというふうに思っています。香川県の人口だっってすごく減っていく。それは統計として出ている。その辺りに関してどのようにお考えか聞かせていただきたいと思いません。</p> <p>将来推計に関しては3月に新たに出されたものを今回資料としてご提示させていただきました。2045年、今から約30年後には4万数千人という人口規模になっていくようです。これは過去の統計を見てもほぼほぼこういう数字になっていくことは承知しています。ただ、これを全て受け入れてしまうと思えば縮小思考で考えてしまうことになるので、この将来推計を踏まえつつも、いかに財源確保をしながら、持続的なまちを続けるのか、人口を維持、さらに人口が増えるような政策を展開していきたいというところであります。この人口推計を現実問題として受け止めながらも思考が縮小することなく考えていきたいという気持ちです。</p>
	<p>平井委員</p>	<p>例えば特急が止まるあの高瀬駅について。特急が止まる三豊市の中心の駅としては少しみすぼらしい感じがしています。難しい問題だと思うが、JR四国とタッグを組むとかして、駅そのもののリニューアルはできないのでしょうか。また、シャインマスカットとか高瀬地域の桃とか。三豊ブランドのような付加価値をさらに高めるような政策を考えているのでしょうか。</p> <p>大型商業施設、若者が集まるような、例えば映画館であるとかスポーツ施設、そういったショッピングモールができると若者も集まってくるし買い物もしやすいのではないかなと思います。にぎわいづくり、そうすると雇用が創出されるしいろんな企業は出店される。枝葉末節かもしれない。</p> <p>緑ヶ丘総合運動公園について、今日は第4木曜でお蕎麦を打って食べさせてくれましたが非常においしい。第3木曜はうどん。地域の方が出てきて活動されています。詫間にはマリノウェーブもありますし、緑ヶ丘の方は四国学院大学が指定管理を受けて行っており、大学のほうがもっと力を入れなくてはいいけ</p>

	事務局	<p>ないが、そういった PR も必要ではないかと思えます。</p> <p>次に学校の統廃合。人口が減ってくると校舎がフル活用されているのかどうか、その辺りがよく知らないと言うので教えていただきたい。</p> <p>それから詫間の市民病院。ここの立地っていうのは高齢者の方には使いづらい。また老朽化が結構進んでいるんじゃないかなと思ってます。そういったものに対して私はハコモノ行政的なことを言っているのではなく、定住ということを推進していくのであれば、最低限、住みやすい街、明るい街、そういった物をリニューアルすると言うか、リノベーションをするというお考えはあるのかどうでしょうか。</p> <p>生活基盤の移住定住というところで、40 歳ぐらいまでで他の市区町村から移住他県から移住されて、家を建てると 100 万円補助がありますが、どれくらいの効果を得ているのか。それから空き家というのがどの自治体でも問題となっているので空き家政策も含まれているのかどうか。それから三豊市には不動の滝や紫雲出山などの観光地があるが宿泊施設がありません。このことについて考えを伺いたいと思えます。</p> <p>今、平井委員さんのおっしゃられたようなことが、この基本構想の下に、基本計画、実施計画してぶら下がり、今から明確になっていきます。</p> <p>まず、駅については、これは逆に委員の皆様にお伺いしたいのですが、三豊市の顔の駅と言われた時に皆様がどこの駅をイメージされるのか聞いてみたいのですが。高瀬駅という方。(2 名の委員が挙手)、では、詫間駅という方(残り概ねの委員が挙手)。</p> <p>やはり、昔から住んでいる方のイメージと、移住してきたり、外から見る三豊市としてイメージされている方のギャップというはあると思えます。高瀬には本庁舎もあり重要な駅ではあるので、今後、高瀬駅をどう位置づけし、ここを中心にこの辺りをどうデザインしていくのかというのも今後の議論にはなってきます。今後の大きな課題だと思っています。</p> <p>次に、三豊ブランドの発信については、昨年、三豊の地域商社「瀬戸内うどんカンパニー」を立ち上げりました。地域の稼働力を底上げしていくと言うことで、外部から 1 人、30 歳代の</p>
--	-----	--

	<p>CUO(チーフうどんオフィサー)を招き、いろんなムーブメント起こそうとしています。あと2年、この地域商社を側面支援しながら三豊の稼げる力、ブランド力の発信ということで取り組んでいきたいと思っています。</p> <p>3 番目、商業施設でにぎわいづくりという意味では、三豊市においては ゆめタウン三豊という商業施設があります。今後のまちづくりマップの中で商業ゾーンというものをどこに設けて、じゃあそれを中心にどのように作っていくのかというのは明らかにするべきかと思っています。</p> <p>次に、スポーツ環境とかシティプロモーションということになるかと思うが、三豊市としてのシビックプライドというものをも市民の皆様と一緒にどう創り上げていくのか。そして外に向けて三豊市というものをどう発信していくのが大事になってくると考えています。</p> <p>そして、廃校校舎の有効活用については、現在までに、財田で2つ、山本で4つ、詫間で1つ廃校になりました。山本の1つ以外は、全て民間の方にお貸しをしている。地域の皆様のご意向も賜りながら、今後も子どもが減ってきて統廃合の話が出てくるかと思うが、その時その時で地域の皆さんの声も聞きながら、行政としては一般財源を投入することは難しいが、民間の力をお借りしながら、地域の賑わいづくりを発揮していただくためにやっていきたいと思っています。</p> <p>永康病院についてはご指摘の通りであります。先般の議会の中で、山下市長も申し上げたが、市民病院としての永康病院がどうあるべきかというのを今後9月議会に向けて最終的な結論を出していくというところです。</p> <p>また、定住の効果については、平成23年から若者定住という形で40歳未満の方が家を建てるときに100万円を補助する事業と、空き家バンクというものをその後の平成24年から始めています。実績として、市外から移住世帯が299世帯、774人という3月までの実績としてあります。一定の効果は出ているかと思いますが、潜在的空き家というのが市内に2000弱あることを考えると、この有効活用、またこの問題をどうしていくかというのも今後の課題となってくると考えています。</p> <p>不動の滝と紫雲出山の件については、シティプロモーション、観光DMO的なものを作る動きも検討したいですし、今、父母が</p>
--	---

		<p>浜は、週末になると 1000 人を超える人が訪れている状況です。いかに地域にお金を落とす仕組みを作っていくかと言うのが今後大事になってくると思いますので、その辺りも考えていかなければなりません。</p> <p>最後に宿泊関係ですが、こちらもなかなか行政が手掛けることは難しいのですが、民間の事業者が参入してきやすい取り組みというのでも総合計画の中で描いていきたいと思っているので、ご審議いただけたらと思います。</p> <p>宿泊関係といいますと、横山委員のやられているところとも関連があると思うがご意見はありますか。</p> <p>以前、市役所の方と話をしていた、いわゆるホテルとか旅館に登録していない民間のゲストハウスがどれくらいあるのかと聞いたことがあります。きちんと届け出していないのもあるらしいですが、そういうのを含めると 40 ぐらい民間のゲストハウスがあると聞いています。</p> <p>この辺はこの後の基本計画 のところで具体化されていくと思う。</p> <p>名称についてですが、総合計画の中に基本構想と基本計画と実施計画があり、基本構想の中に将来像と基本目標と基本方針があると思う。「基本」「基本」とたくさん出てきています。もしかすると長期計画とか中期とか短期とか、あるいは基本目標の下の所に具体的な重点実施項目のようなものが入り、下に方針が付いてくるような構成になっています。</p> <p>その名称だとか、イメージしやすいような名称とか、自分がその何を考えていかななくてはいけないのか、基本構想の中に市民が中心というのが入っていることから、他人事じゃないと思いますので、その辺を考えていただけないでしょうか。</p> <p>基本計画と基本方針は何が違うのかということか。</p> <p>基本構想は長期のものであって、基本計画は中期で見直される可能性がある。実施計画は 3 年だが、毎年進捗状況に合わせ</p>
	原 委員長	
	横山委員	
	原 委員長	
	眞鍋委員	
	原 委員長	
	眞鍋委員	

		<p>て軌道修正していく。それがもっとストレートにわかるような題目を。基本目標の下に重点実施項目というのがあり、その下に基本方針という表記になっている。しかし、基本方針が上に乗ってくると、おそらく市民の人は重点実施項目が他人事じゃなくなるかもしれない。タイトルの付け方とかだと思うので、検討してもらいたのですが。</p>
	原 委員長	<p>ぱっと見て中身がイメージできるネーミングということでしょうか。</p>
	事務局	<p>あらためてご相談させていただきたいと思います。</p>
	中村委員	<p>人口減少を黙々と認めているのはいけない。減らない方法をなんとか政策でやるべきだと思います。ただし財源がどんどん少なくなっていく中で、「選択と集中」という言葉が出てきたのだらうと思っています。そういう中で、今まで7町平等に色々やってきた中で、選択と集中で効率よくお金を使っていこうと言うことだらうと思っています。それは大賛成。基本方針で市民が主役のまちづくりの中で分権をさらに強化していくということだが、これは多分まちづくり推進隊 と言っているのかと理解しているのだが、間違いはないですか。</p>
	事務局	<p>前段の部分はお見込みのとおりです。市民が主体のまちづくりというところで、地域内分権という言葉をあえて使っている。この地域内分権というのは当初使われていた意味としては、国から地方への地方分権、さらに地方から市民や企業の方々にやっていただくことを地域内分権という形で進めてきました。そのモデルケースとして前市長の時には、「まちづくり推進隊」という制度を作ってやってきました。しかし、推進隊以外の分野でも、市民の方々があらゆる場面であらゆる活動されているので、ここではまちづくり推進隊だけを指すのではなく、そのような市民活動全てをさすということで理解いただきたいと思います。</p>
	中村委員	<p>審議会の委員に議論していただきたいのは、まちづくり推進隊が本当にいいののだろうかということ。もう少し違った方向は</p>

		<p>ないのだろうか。効率よくできているのだろうかという点です。</p> <p>もう一つは、まちづくりのゾーニング。これはものすごく大事だと思う。庄内半島や仁尾地区が観光ゾーン、これはみんなが認めるところであろうと思います。豊中・山本・財田あたりが農業関係というのもみんなが認めるところだと思う。しかし、市民交流ゾーンは何をやって行くのかが見えない。農業とか観光とかはよくわかります。ここは基本の非常に大事なところなので、将来的に10年間でどういうまち、集中投下して何をどうして行くという考えなのかすごく大事なので論議していただきたいし、方針を聞きたいと思います。これを踏まえて、病院がどうの何がどうのという話になってくるのだと思う。</p> <p>ゾーニングに関して市民交流ゾーンが何を指すか、何をするかについて事務局補足ありますか。</p> <p>このゾーニングに関しては決まった名称ではなく、いわゆるイメージで作っていますので、今後皆さんの意見を聞きながらこういう名前こういう名称でというのを、逆に意見を伺いたいということで、今回はこのようにご提案させていただいています。</p> <p>こういう目標で資本を投下していこうという考え方で良いですか。</p> <p>その通りです。</p> <p>最初に私と事務局の方で打ち合わせした時には、交通体系が強調され、三豊市を横から口串刺すような図になっていました。現状はそうかもしれないが、横から市をまたぐような方向に強調されていて、市内を移動する方向が弱い。それをそのまま使えば、三豊を一つにするというよりも三豊はバラバラだなという印象を与えてしまう。それは良くないし、今後、地域の特性がありながらも、どう連携をさせていくのかということで将来像をイメージした方が、少し工夫した方がいいという話をした。そして、以前より前向きで、簡略化された図が出てきています。ここは仮ということで今後の見通しという中で、連携を</p>
	原 委員長	
	事務局	
	中村委員	
	事務局	
	原 委員長	

		<p>どうしていかししっかり考え、うまく反映できるようみんなが三豊はこうなっていくのかということをしかりと分かるようにしていけたらと思います。</p> <p>もう一つは、三豊という話とそれから何かをやる場合、自分が住んでいるところ自分が関係しているところをベースに何かをしていくという流れとどうバランスするかっていうことは大事だと思います。私は、三豊市はかなりいろんな取組みをされているという印象を持っており、三豊観光 100 年会議の動きは、かなり盛んに行われて、そこからいろんな動きが出てきている。無双地図なんかもそうだと聞いている。そういった三豊観光 100 年会議など、三豊市全体として取り組むことがあって、いろんな刺激を与え、その結果その方々がまた何かをするという時にもう一度旧町ベースのところ何か始めているということも聞いている。</p> <p>それは自分で何ができるかというところから始めるというのがいい一方で、市長が言われているように旧町単位ではダメだという意見もある。今後、地道に自分の住んでいるところをベースにして、何かやりたいことをやってみても、その頂を越えて大きくするって言う両方の次元がある。その両方をこのゾーニングの中でどう組み込むかというのはひとつの工夫のしどころかなという風に思っています。その辺り含めてまちづくりゾーニングの仮を今後どういう方向で考えていくかではないでしょうか。</p> <p>今、委員長がおっしゃられた通り、このゾーニングというのは二次元ではなくていろんなレイヤーが重なり、3次元になって一つのまちづくりが表されるものだと考えている。その中には市民活動のエリアが一つのレイヤーであり、観光のレイヤーはまた別にあり、重なり合うところもあるというようなイメージである。平たな一枚の紙で表されるものではなく、それぞれの施策、それぞれの市民活動の形が積み重なって一つの三豊のまちづくりが現れるイメージである。</p> <p>まちづくりマップのゾーニングの部分ですが、これが基本構想で一番元になるということは、例えばこの期間、用途とか都市計画とかいろんな優遇措置というようなものをこちらに誘導</p>
	事務局	
	眞鍋委員	

		<p>するためとか、この計画に基づいて施策を考えていくということによいのですか。</p>
	事務局	<p>基本的に、この総合計画というものが自治体の最上位計画であり、この計画に基づいて下の個別計画、今おっしゃられたような都市計画とか立地適正化計画とか、あと諸々の個別計画がこの計画と同じ考えの基にぶら下がってくる。それに基づいて施策は展開されていくというようなイメージです。</p>
	眞鍋委員	<p>ということは企業立地とかもこれからどんどん押していくんだと思うが、現に詫間の食品会社が集まっているところとか、そういう工業の集積地というものが結構あると思うのですが、この名前だけのイメージで行くとそういったものはなさそうなイメージがある。別途ぶら下がった形で示されるのですか。</p>
	事務局	<p>項目として商工業ゾーンであれば、例えば工業振興ゾーンということで、臨海地帯をイメージしたものが一つ乗っかってくるといような形になると思います。</p>
	眞鍋委員	<p>了解しました。</p>
	原 委員長	<p>確かに、工業関係がここには出てこないですね。</p>
	眞鍋委員	<p>(この図だと)すごくのどかな感じがしました。</p>
	事務局	<p>企業立地に関しては、とても大切なので、そのあたりもしっかりと描いていければと思います。</p>
	原 委員長	<p>ほかに如何でしょうか。</p>
	橋本委員	<p>先ほど移住されてきた方が、299 世帯と数字を教えてくださいましたが、7町のどこの地区にどのくらいというのが分かれば教えていただきたいのですが。</p>
	事務局	<p>地域別については、手持ち資料がないので、お時間をいただきたいかもしれません。</p>

	橋本委員	<p>人口減少の話で、おそらく仁尾・財田がものすごく減って行っていると思います。その地区に、いったいどれだけの方が入って、定住をされているのか。私から見れば、豊中は繁華街のイメージがあって、そこにきた方というのは、企業にお勤めで転勤族の方がいるかもしれないし、また、出て行っている可能性もある。人口減少がこの先も急速に加速する地域で、どれだけの方が止まっているのかというのもやはり知っておくべきだと思います。</p> <p>というのは、それが農業移住であるのか、新たな老後の生活をしたという事で地方に来たとか、いろんなことを知った上で、まちづくりの計画に取り込んでいかないといけない。子どもが生まれないのであれば、外から呼び込まないと人口は増えないので。そこもやはり重点的にされた方がいいかなと思っています。</p> <p>実は、午前中に先月移住されたばかりの人にお会いしてきました。その方は財田に来た方で、震災に遭われて5か所を転々として、やっとここに辿りついたそうです。最終の土地を選択するにあたって、三豊の空き家バンクの物件が非常に多かったとのこと。他の自治体には1、2件しかなくて、空き家バンクに関してはよかったと思うと意見を聞いてきました。やはりそういったいい部分というのは伸ばしてやらないといけないと思います。</p>
	事務局	<p>先ほどの地区別の移住者数については、次の会でご報告させていただきたいと思います。また、空き家がどの地域にどのくらいあるかも調査しているので、そのあたりを多方面から分析するといろんなことが見えてくるのかなと思います。</p> <p>まだ分析できていない資料で国土交通省が発表している2050年の人口の増減状況マップ、2010年との比較というのがあり、これは1キロ平方メートルメッシュで表されていて、40年後は非居住地域というのも出てくるので、このようなものも分析したいと思っています。</p>
	原 委員長	<p>三豊市の空き家バンクをうまく使われているということもあるので、厳しいけれども何か光明が見えれば移住者の</p>

	<p>横山委員</p> <p>事務局</p> <p>原 委員長</p> <p>事務局</p> <p>原 委員長</p> <p>眞鍋委員</p>	<p>方々がどう来られて、どういう場合に住み続けるかをしっかりと精査して、何がポイントかを押さえた施策をとっていくことが大事だと思う。三豊の移住者は荘内半島だけでも60～70人いるようだ聞いた。全体にすればかなり多い。そういった資料を次回みせていただけるとありがたいと思います。</p> <p>2点質問いたします。まずは構成についてですが、前回の計画の振り返りがあればと思います。概要で良いので。それを踏まえての将来像があれば読みやすいのかなと思います。</p> <p>もう一つは財源について、地震や津波などの災害など南海トラフ地震を経て人口減少というのはあるのかもしれないが、今のまま何もしなければ財源がどのように落ち込んでいくのかというものがあれば、市役所も市民も危機感をもって取り組むと思うので、あった方がいいのかなと思います。</p> <p>まず、総合計画の構成については、委員の意見を参考にさせていただきたいと思います。次に、財政面については大切なことであり、いくら施策を並べてもできることとできないこともある。一体どれくらい実現できるのかといわれた時に財源的にどうなのかということを明らかにしないと、絵に描いた餅です。そのあたりは財政担当とも調整しながら十分公表しながら進める必要があると考えています。</p> <p>では、一旦、ここで審議を終了して、事務局から2章以降の説明をお願いします。</p> <p>(事務局より第2章の説明)</p> <p>では、今の事務局の説明に対して委員の皆様から意見を伺います。</p> <p>満足度と重要度のところのマッピングですが、エリアによってこの結果は違うと思います。そのエリア毎の結果と、先ほどのまちづくりのゾーニングは関連づけられているのか知りたいです。これは絶対必要だと思います。財田、仁尾などでこの満足度重要度の数値はかなり変わるとは思いますけどどうでしょう</p>
--	---	---

		か。
	事務局	現状、この優先度に基づいたゾーニングの提案はできていません。今、提示しているものは、例えば観光ゾーンであれば拠点となるようなランドマークのあるエリアを振興していくというマッピングをしており、現存している拠点をもとにゾーニングしています。
	眞鍋委員	それならば、市民の意向も反映されないし、データを取る意味も低くなると思いますので、ぜひ関連付けてほしいと思います。
	原 委員長	三豊市の中もいろんな条件が違うので、それを踏まえたうえでの総合計画というのが求められるのかなと思います。地区別の統計分析もそんなに難しいものではないと思いますので、進めていただければと思います。
	事務局	補足説明ですが、アンケートでは、2500人のうち、940人の回答を得ました。その回答が各地区で同じボリュームで帰ってきていけばよいのですが、地域によって返答率が違うので、そのあたりも勘案しながら分析をさせていただきたいと思います。
	原 委員長	回答率の低いところはありませんか。総数が少ないとか、そのうちの年齢別に極端な差があるとかということがあれば、慎重に扱わないと問題になるケースがありますが、すぐわからなければ検討してください。
	事務局	はい、居住地域別でみると、山本町が少し低いのかなと思います。そのあたりも踏まえて分析をさせていただきたいと思います。
	原 委員長	ほかに如何でしょうか。
	橋本委員	まちづくりカフェについてなんですが、前回の一回だけの開催でしょうか。というのは、私も参加させていただいて、2つの

	<p>原 委員長</p> <p>事務局</p> <p>原 委員長</p> <p>増田委員</p> <p>事務局</p>	<p>学校の高校生の方と同じグループになりお話ししました。三豊の将来は明るいかなど思った。でも、後から考えると、こんな会議に出向いてきて話に加わろうと思いのある子は愛着度が高いからかなと思ひ返しました。実際にアンケートの結果が正しいかどうかはわからないけれど、本当は、若い子は明るくない将来像を持っているのかなとも思いました。なので、このような中央で開催するだけではなくて、各地区で開催して、そういうところで来たほうが子どもの意見が聞けるのではないかなと思った。</p> <p>確かに、ここに来ていただくよりも、こちらから出向いて行って意見を聞いたほうが現実的な意見が出るかもしれない。そのあたり事務局どうですか。</p> <p>まちづくりカフェだけではなく、アンケートに関しても、市に対して思いが強い方が参加されたり、回答を下さったりしていることは大いにあるかと思う。回答結果が市民の総意ではないと思いますので、参加されていない方がどういった思いを抱かれているのかといったところは、お聞きする場面があっても良いのかなと思います。</p> <p>サイレントマジョリティの部分も視野に入れておかなければならなってしまうのはあります。一方で、まちづくりを進める場合には、その人たちを待っていても何も動かないので、まずはやる気のある方から取り入れていくという、両方の視点が大切だという気がします。その辺も留意して取り組んでください。ほかに、如何でしょうか。</p> <p>この総合計画が最上位になるということですがけれども、せっかくまちづくりカフェを開催し、市民に知ってもらった計画でないといけないということだと思うので、これからもどんどんやっていくものかということと、市民にフィードバックしてやっていく場合、これから下の実施計画に落としていってわかりやすく取り組んでいこうということによろしいのでしょうか。</p> <p>まちづくりカフェの今後の開催はということについては、正</p>
--	---	--

		<p>直、時間の制約もありますが検討はしたいと思います。実施計画については単年度であります、計画の見直しと事業の報告を行って参りますので、そういうところで市民の方にお伝えするとともに、意見もいただきたいと思っています。ご発言のとおり、行政の一方通行ではなくて、計画を通してまちづくりに理解頂いて参加いただくことが最終目標ですので、わかりやすさも求めながら進めたいと思いますので、それぞれの立場からこういうほうが良いのでは無いかということも審議頂けたらと思います。</p>
	原 委員長	ではその他に。
	眞鍋委員	<p>先ほどの増田委員の意見に補足してなんですが、市民の意見の反映方法が、今後パブリックコメントだけになっています。まったく違う手法ですが、観光基本計画の審議会の時に、タウンミーティングのような感じで、各会場を回って説明をして意見のやり取りをするということも行いました。その時には委員が自ら説明しました。私たちが審議に参加して考えた内容だから私たちが責任を持とうということになりました。厳しい意見もいただきましたが、このことがみんなを我が事にして、100年観光会議が生まれ、無双地図さんが出来たり、今それぞれ活動している人たちがあそこから誕生してきたと思っています。</p> <p>この会議も、多少なりとも自分事にするためにも、あのような意見交換会があってもいいのかなと感じています。ハードルは高いと思いますが。</p>
	増田委員	総合計画なので、ある程度行政の方向性がある、その下に市民がくるのかなとは思う。
	眞鍋委員	各地域をまわってリアルな意見を聞いたのは良かったと思っています。内容をまとめたのは行政やJRさんでしたが、発表の仕方をメンバーが考えました。
	原 委員長	事務局からもありましたが、行政だけではだめで、市民に浸透することが大事という意味では、眞鍋委員の発言のように、市民一人一人が自分のこととして、理解していただく、捉えて

	事務局	<p>いただく工夫は大事だと思いますので、タウンミーティングを検討しても良いかと思います。このあたり事務局としてはどうですか。</p> <p>先ほど実施計画の段階でと申し上げましたが、委員発言のとおり、策定段階で、市民の意見を頂くことも大事だと思いますので、タイミングを見てそういう場を検討して参りたいと思います。</p>
	眞鍋委員	<p>まったく収集がつかなくなる場合もあるので、後からでも大丈夫です。</p>
	増田委員	<p>時間的な制約もありますね。</p>
	原 委員長	<p>我が事におもっていただくというのは大事な視点だと思います。</p> <p>ほかに如何でしょう。</p>
	砂取委員	<p>一市民からの意見です。難しい話の中で、行政も大変な仕事されているなというのが、ひしひしと伝わってくるのですが、全てを三豊市でできるわけでもなく、叶えられるわけでもないと思っています。先ほど、家の中の財布で例えるという説明もありましたが、人口が減ってくるというのは皆さん承知のことだと思いますし、そこからどう立て直すかというのが必要なんですけど、大切な柱としては、限られた人口と、財源の中で、そうみんなが豊かに暮らしていくかという方向へのソフトチェンジも必要だと思います。例えば救急車を呼んだ時に、どこの病院を思い浮かべるかと考えたときに、私は詫間に住んでいますが、永康病院は思い浮かびません。労災病院か三豊総合なんです。三豊市だけではできないことでも隣に強みがあるところに委ねたり、頼ったり連携していくことも必要ではないかなと思っていました。</p> <p>J R 駅の件で、三豊市の顔という意味で、全ての駅が整ってというのも理想ではありますが、はたして 10 年後、20 年後に、J R がどれだけ利用されているのか。これだけ車社会になっている中で、どこに重きを持つのかなとも思いますし、新しく移</p>

		<p>住されてくる方が、環境の良いところを求めて移住されているということですが、地元に住んでいる人は家を建てる時に、駅が近いところ学校が近いところをいまだに探しています。今後、その生活の仕方も変わってくると思うので、実際三豊市は子ども達のアンケートでも答えていたように、何が強みで、何をどう活かしていけたらよいのかを考えたときに、全てが全て最善の策でなくても、次善の策というのでも考えていくべきかなと思いました。</p> <p>私も、大阪に戻って移住セミナーとかで話す機会がありますが、移住希望者には、「少し足りないくらいの生活を楽しめる良さがあります」とお話すんです。都市部は何でも揃っているのですが、それが当たり前になっていますが、こっちに来たら、買い物するのも絶対車が必要だし、電車は少ない本数しかなくて、そういう足りない生活を楽しむ良さがここにあるというので、先ほど言われたシフトチェンジっていうのを進められる考え方っていうのも、大事かなというのを聞いていて思いました。</p> <p>個人的な意見ですが、病院のことなんですけど、健康保険料の問題があると思いますが、今後ますます高齢化が進んできますが、お年寄りがあまりにも病院に行き過ぎているのではないかと感じています。私は病院大嫌いなのでいかないんですが、付き添いでいった時に、8時30分から受診するために、朝5時から順番待ちのカードをもらいに待っている。で、10時くらいに行ったら、夕方4時くらいになりますって言われて、見たらお年寄りがずらっといる。具合の悪そうな人たちばかりには見えなくて、憩いの場として来ている人が多いのではないかと思えました。そのあたりのレクチャーをして病院へ行かないような指導はできないのかと思います。</p> <p>それに代わる集いの場というのはどうですか。</p> <p>いま、3名の委員からいただきました意見について、述べさせていただきます。まず、広域連携ということについてですが、一つのまちが全てを持つ必要はないというのは、7つの町がフルセットで合併して反省でもあり、466もの施設をもった三豊</p>
	橋本委員	
	中村委員	
	原 委員長	
	事務局	

		<p>市でしたので、財政的に余裕のある自治体であればそれでよいのですが、本市も厳しいということで総量を減らす取り組みをやっているところです。なかなか、利用者もいて減らないんですが、総量を減らしてお金を減らす、それとともに、横の連携をつくっていく中で、そのメリットを最大限に発揮していくことだと思います。ご発言のように、となりまちには全国規模の小児病院がありますし、面積の一番小さな県ですので、スケールメリット出せると思いますので、一つの自治体で考えることなく、やっていくことは大事だと思います。</p> <p>次にイメージシフトということでご発言がありましたが、大阪市の面積が223キロ平方メートルで、三豊市が222キロ平方メートルです。その中で住んでいる人口は40分の1くらいです。</p> <p>豊かさでいうとそれぞれの価値はありますが、その価値観をシフトできるような生活っていうのも取り組んでいきたいと思います。</p> <p>最後に高齢者の病院位階の憩いの場づくりという件ですが、病院に行かずとも、地域の保健室のような取り組みも、先進的に行われているので、地域の高齢者の方が集まって、相談事が出来たり賑わいができるような仕組み作りは今後大事になると思いますので、その拠点づくりというのも明らかにしていきたいと考えています。</p>
	矢野委員	<p>まちづくり推進隊の話が出ていますが、各まちで取り組みはいろいろだと思いますが、活動の内容が全然わからないので、次回資料をだして頂きたいと思います。</p>
	原委員長	<p>そのことについて事務局。</p>
	事務局	<p>まちづくり推進隊7つありまして、そのうちNPO法人となっているのが6つあります。それぞれの活動についてはホームページ等で公開されておりますので、次回その資料をご用意いたします。</p>
	原委員長	<p>そのほかに。</p>

	<p>今川委員</p> <p>中村委員</p> <p>原委員長</p> <p>矢野委員</p> <p>原委員長</p> <p>矢野委員</p> <p>中村委員</p>	<p>今日お話し聞きながら、まとの将来像のところ、子ども達がイベントやお祭りが多いまちということをお話していましたが、自分自身のことを考えたときに、私は仁尾なんですけど、めちゃくちゃ不便です。不便だけどなぜ地元にいるかという、そこに自分の居場所があるからなんです。必要としてくれる人たちがいたり、助けてくれる人達いたりするので、子ども達も便利なまちになってほしいって言うわけではなくて、自分の居場所があればこのまちに愛着を感じると。だからこそ、子ども達が自分のまちに誇りを持てるような、コミュニティや場づくりはみんな考えて行けたらと思います。</p> <p>2年や3年でなくて、10年20年投資になるんですが、私も31ですが、これは30年投資だと思っています。今すぐには結果は出ないですが、やれば確実に残ると思う。自分たちがまちで楽しめば、そういう大人をみて子どもも、このまちはいいまちだと思うので、ここにいる人たちが、面白いこと楽しいことをつつていかなければいけないのかなと思いました。</p> <p>移住も大事だけれど、出ていかないようにするのも大事だと思います。</p> <p>居場所づくりも大事なキーワードかなと思います。</p> <p>移住者が増えているとのことですが、住んでいる人間は良いところがわからなくて、不便とか嫌なところはよくわかる。子ども達が外に出ていかないようにすることは無理にしても、外から来た人たちが、ここが良くて来たんだというのを話してくれる機会があればいいのではないかとふと思いました。</p> <p>移住者の意見を聞けばそういうものかと思える。</p> <p>その時にわからなくても、時間がたった時に、あの時のことはこういうことだったのかと蘇るかもしれないです。</p> <p>先週、東京から2名初めてくる方の対応をしたのですが、香</p>
--	---	---

	<p>田井委員</p> <p>新延委員</p> <p>黒田委員</p>	<p>川県のガイドブックを持ってきていました。開いたページに父母ヶ浜が載っていました。栗林公園より先に載っているんですよ。実際に父母ヶ浜を案内したら、これは海の軽井沢だねって言われました。でも、地元の人たちはあまりそれを感じていないのです。外からそういわれるとそうなんだなって思う。外に向かってアピールしていくことも大事だなって思います。</p> <p>皆さんの意見を聞いて参考になりました。私も他県から来た人を荘内半島に案内して喜んでくれました。それと、その方が市場の人だったのですが、山本のミカンおいしいですねって言われました。地元でいながら山本のミカンがおいしいのは知らなかった。父母も行ったが、小さな発信がこれほどの効果を生んでいるのかと感心した。あと、広域的な観点ということで、ホテルは観音寺のホテルを紹介したが、意外と近いという感想もいただいた。香川県くらいの規模は広域的な考えでいいのかなと感じています。</p> <p>商工会の会長をやっておりますが、7 町が一緒になっても、経済圏は 100 年くらい続いている中で、なかなか新しい枠組みにならない。豊中の人観音寺に行くし、このあたりの人善通寺や丸亀に行く。財田の人は琴平へ行く。結構出来上がってしまっている。そのような中で、小学校や幼稚園が余るようなことになってきている。再編しているが、ものすごくお金がいることであります。半島のほうで、インフラ整備したものが無駄になる。待ったなしにやれるとことからやってみたらというくらい、無責任なくらいなことを考えないと手につかない。少子高齢化のなかでお金が回らないようになってしまわないように出る知恵があればと思います。</p> <p>この会に参加するようになってから、どうすれば外から人が集まってくるのか、ここで留まる人をどうするのかというのを考えるようになりました。去年、子どもが修学旅行で沖縄に行ったんですが、観光だけでなく民泊をしましたが、私はそういう体験がなかったので、最初はかわいそうだと思っていました。しかし感想は地域とのふれあいや、そこで体験した事のほうが強烈に思い出に残っているようでした。ひめゆりの塔にい</p>
--	-------------------------------------	---

		<p>ったことよりも、沖縄の人たちと生活したほうが覚えていました。なので、ここに中学生たちが来て、例えば空き家も多くあるのでそれを活用して民泊できるような施設をつくって、いろんな体験ができるようなことをすれば、また戻ってくるのではないかと思います。子どもは沖縄にもう一度行きたいって言います。</p> <p>観光だけではなく、住んでみたいという子もいるような気がします。三豊市で体験することで、よそからの子ども達を呼んでくるようなことができるような気がしています。そのようなことを作ってもいいかなと思います。</p> <p>修学旅行の滞在先として取り組みをつくってみてはということですが、横山委員さん近いことをされていますが、そのあたり何かありますか。</p> <p>三豊ならではのものって、意外なところで、日本でここしかないようなバイオマスのごみ処理とかもありますので、環境学習っていうのをやったりとか、燧灘のイリコ漁をみるっていうのも考えられます。ここにとってはあたりまえだけれども、ここにしかない異なる日常っていうものを体験していただくツアーを計画していきたいです。子ども達にとっても違うライフスタイルを見たり、都会より、ここ良いかもって思ってくれるような気がします。</p> <p>それでは、非常にたくさんの意見を頂戴しましたが、意見を反映した基本構想案というのを次回会議でお示しいただけたらと思います。本日の議事については、完了いたしました。では、「その他」ということで、委員の皆様から何かございますか。</p> <p>次の予定は。</p> <p>では、策定スケジュールについて事務局からお願いします。</p> <p>(策定スケジュールについて説明)</p>
	原委員長	
	横山委員	
	原 委員長	
	橋本委員	
	原 委員長	
	事務局	

	原 委員長	<p>それでは、他にご意見もないようですので、本日の会議は以上といたします。</p>
		<p>ご審議ありがとうございました。事務局へ進行をお返します。</p>
	事務局	<p>ご審議ありがとうございました。</p> <p>本日頂いた意見に基づき、次回会議では適宜追加修正を行った「基本構想案」および「基本計画案」について、ご意見を頂戴したいと思っておりますので、委員の皆様よろしくお願いたします。では最後に、政策部長よりお礼を申し上げます。</p>
	政策部長	<p>(お礼あいさつ)</p> <p>閉会</p>